

令和2～4年度 うきは市立御幸小学校のグランドデザイン

国の教育動向 ・教育基本法:教育の目的及び理念、教育の実施に関する基本 ・学習指導要領:資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメント ・第3期教育振興基本計画:目指すべき姿、教育政策の重点事項	県の教育動向 ・福岡県総合計画(福岡県教育振興基本計画) ・福岡県教育大綱(ふくおか未来人材育成ビジョン) ・福岡県学校教育振興プラン・鍛ほめ福岡メソッド	市の教育動向 ・うきは市教育大綱:『生きる力』を育てる教育の推進 ・うきは市教育振興基本計画(うきは市教育施策) ※ うきは市が目指す教育の姿【市民像】の実現→三つの基本目
--	---	--

経営要綱 よさを学び やり抜く子供 を育成する	1 本校の使命 変化を予測するのが困難になり、経験したことがない問題の解決に挑まなければならない時代を、賢さをもって、心豊かに、たくましく生き抜く子供を育成するために、子供一人一人がよさを主体的に発揮して困難を乗り越え、目標を達成しようとする資質や能力を育む教育活動を組織的・協働的に創造していくことである。	2 基本方針 (1) 質の高い問題解決的な学習活動を核にしたカリキュラム・マネジメントを展開し、目標を達成する喜びや楽しさを味わう授業を積み上げる。 (2) 教育活動に「切れ目」と「格差」が生じないように、四部会(学び・構え・心・体)や学年部会の機能向上を図り、共通実践を徹底させる。 (3) キャリアステージに応じた資質・能力を育成することができるように、重点目標と連動させた自己目標管理を生かした人材育成に取り組む。	3 目指す学校像、教師像、授業像	4 経営の中期ビジョン (1) 全国学力・学習状況調査(国語科、算数科)において平均正答率(標準化得点)が全国平均を1ポイント以上上回ることを目指す。 (2) 「学びづくり」「構えづくり」「心づくり」「体づくり」に関する学校評価及び児童評価(4件法)の平均が3.0を上回ることを目指す。 (3) 自己目標管理に基づいた取組を振り返る面談の充実を図り、成果と課題を踏まえた実践を連続、発展的に展開することを目指す。	5 経営の重点 ※ 本年度は「基礎期」における重点
---	--	--	-------------------------	--	----------------------------------

中期的運営基本方針(令和2年度～4年度)	中期ミッション	○ 見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けたり、情報を精査したり、問題を見いだしたりすることに向かう過程を重視した授業づくりに資する研修の実施 ○ 重点目標の達成(4件法の平均スコアが3.0以上)に向かう共通実践の徹底を実現する4部会及び学年部会の最適化に資する学校評価システム及び運用の見直し ○ 「課題の設定(面談)→課題を踏まえた実践→振り返り(面談)→新たな実践」という職員個々の自律的な学びの充実に資するメンタリングを主としたOJTの実施		
	運営基本方針	【方針1】……「つながり」の視点から 内容や方法の体系や系統性を踏まえたプランの構築	【方針2】……「まとまり」の視点から 学び合いを促すコミュニケーションの強化、充実	【方針3】……「やりぬく」の視点から 短いスパンで繰り返すPDCAサイクルの確立
	組織	— 中期ミッション達成に係る指導系列の分掌組織等 — ・運営委員会 ・学年部会 ・学校課題解決部会(学び、構え、心、体) ・学力向上推進委員会 ・いじめ・不登校対応委員会 ・特別支援教育推進委員会 ・学校保健委員会 等		
	中期ミッション達成のための具体的方策	授業づくり ・思考、判断の内容を「書く」活動及び「振り返り」を重視した学力向上プランについての共通理解を図る。 ※ 「学びづくり」に関する共通実践との整合性を図る。 ・困難を乗り越えて共通の問題の解決に挑む学級活動の授業づくりに関する手引きを作成し、活用する。 ※ 令和4年度福岡県特別活動研究発表会会場校	・学力向上プランに基づいた質の高い問題解決的な学習活動の視点から授業参観シートを作成する。 ・研究授業に関する研修会(指導案審議、授業整理会等)の運用を「学び合い」の観点から工夫する。 ・授業づくりの課題や改善の方向性を明らかにする協働的、創造的な追究に生かすコーチングの般化を図る。	※ 「書く」活動及び「振り返り」を重視した問題解決的な学習活動の実践については、学年部経営案を活用してPDCAサイクルを回す。 ※ 学級活動の授業づくりに関しては、指導案審議、授業公開、授業整理会をPDCAサイクルにのせて、研究の具体的な構想を明確にしていく。
部会の最適化	・4部会(学び、構え、心、体)ごとに重点目標において↓目指す子供の姿及び評価基準を設定する。 ・学びづくり、構えづくり、心づくり、体づくりにおける↓具体的な方策を明らかにした学年部経営案を作成する。 ・学年部経営案を踏まえて各学級における重点目標の達成に向けた取組を学級経営案に示す。			
職員の自律的な学び(OJT)	・自ら資質や能力を高め成長する自律的な学びを支援するためのOJT推進計画を作成する。 ・個人目標と重点目標の統合を図ることができるように、「授業づくりプラン」や「協働的、創造的な実践をうみだす行動様式」の見直しをする。			
部会の最適化	・4部会のリーダーを中心に、若年教員、中堅教員、エキスパート教員の持ち味を学び合い、高め合う部会運営の工夫改善を図る。 ・重点目標の達成に向けた構想について振り返り、成果と課題を共有するとともに、改善策についてのアイデアを出し合う学年部会の運用を工夫する。			
職員の自律的な学び(OJT)	・若年教員が取り組む授業づくり研修(指導案作成、模擬授業、示範授業、整理会)を活用して、自他の指導力を振り返ったり、学び合ったりする仕組みを構築する。 ・県教育センターや市教育センターの調査研究等で研修したり実践したりしたことを発信する場を設定する。			
部会の最適化	・4部会が中核になって取り組む共通実践については、「やりぬきカード」の活用による子供の変容と課題を確実に分析してまとめる。 ・「学年部経営案を基に実践する→実践を振り返る→学年部経営案を見直す」というサイクルを月単位で回す。 ※ 学年部経営案の見直しを毎月第4週に位置付ける。			
職員の自律的な学び(OJT)	・「自己評価表作成→実践→振り返り」のサイクルを学期単位で繰り返し、資質や能力の高まりを検証する。 ・自己評価表の個人目標(具体的方策)については、年間を通してではなく、学期ごとに、もっと短いスパンでといった柔軟な設定についての共通理解を図る。			

- ・資質・能力の向上を目指す思いや目標の価値、妥当性を精査する対話をすることによって、自分なりに納得して目標の達成を目指すことができる。
- ・目標を達成するための実践に関する知識や経験等を共有する（関連付ける）対話をするによって、具体的なプランを考えたり、改善の方向性を見いだしたりすることができる。
- ・実践の成果と課題を根拠とする目標の達成度や新たな目標をどのように設定するのかを検討する対話をするによって、効力感をもったり研修意欲を高めたりすることができる。

